

英語教育支援のためのオンライン教材開発： 平成15年度の進捗状況

前田 啓朗

広島大学情報メディア教育研究センター

外国語教育研究系

1. はじめに

広島大学情報メディア教育研究センター外国語教育研究系では、文部科学省の「高等教育 IT 活用推進事業」の一環として、継続的に外国語教育用のオンライン教材等の開発を行っている。本稿は、この事業にかかる平成15年度分の経費の措置を受けた筆者担当分の2件の教材開発について、目的、進捗状況、課題等について報告するものである。

2. イギリス文化生活事情ビデオ教材

目的

英国の文化や習慣などの文化生活事情に関してテーマを定め、それらを紹介する動画と、説明する英語音声から構成される教材を開発する。

英語教育・学習教材の市場は大きく、リスニング能力の養成に限らず多くの教材が存在する。本開発による教材は、この事情を勘案してもなお次の点において開発の余地があるものと考えられるため、その余地を特色とするものとして計画された。

リスニング用の教材として広く提供されているものの中で、TOEIC® テストおよび TOEFL® テストの対策に焦点を当てた教材がある。しかし、これらのテストでは、前者では国際語として日常的に用いる英語、後者では学術目的として英語圏の大学における勉学のための英語を測定することを目的としており、母語や文化等に依存しないテストを行うものとするものである。

一方、留学を予定する日本人学生にとっては、日常場面での、もしくは、大学における英語コミュニケーションのための技能も必要であるが、同時にその土地の母語話者との間でコミュニケーションを円滑に行うための知識も要求されると思われる。

このような知識的側面を扱う教材には市販に同様のものも存在するが、紙媒体の教科書と VHS や DVD 媒体の動画と音声から構成される、一括購入形態のものがほとんどある。そのため高価になりがちで、英語リスニングだけでなく英国留学や海外語学研修の事前教育として個人利用や投げ込み教材としての利用が難しくなっている。

したがって、この教材は、動画付き音声教材としてリスニング能力やスピーキング能力を養成するという技能獲得目的、またはイギリスにおける文化や生活事情に関する留学前などの知識獲得目的に利用できるものを意図するとともに、著作権にまつわる使用料などの問題を克服して必要に応じた多目的の用途に供するものとして開発に着手した。

研究・開発の現状

研究期間として3か年を設けた計画段階では、30程度のテーマを選定して音声・動画を作成する予定であった。平成15年度にはそのうち、動画撮影および素材収集の旅費が措置されなかったため、音声原稿の作成と録音のみに限定して計画を推進した。音声原稿についても、日本国内で

の資料収集となったために、予定よりも困難があった。

措置された予算によってイギリス留学経験のある教務補佐員（中山法子氏）を雇用することができ、資料収集や原稿作成の分担をしてもらった。現在まで次のようなテーマを選定し、各テーマにつき500から600語程度（音声にして約5分程度）の英文原稿を作成している。スクリプトは、本文と用語集（いわゆる単語帳ではなく、文化事情を説明するための解説）から構成される。

英国史概略（民族移動史，ノルマン人の征服）	ネッシー
英国史概略（宗教改革，産業革命，大航海時代）	バグパイプ
英国近代史	タータン・チェック
ロンドン	劇場とシェークスピア
ロンドン塔とタワー・ブリッジ	ピーター・ラビット
エディンバラ	チャールズ・ディケンズ
マン島とスカイ島	クリスマスと十二夜
ストーン・ヘッジ	鉄道
オックスフォード大学	地下鉄
ケンブリッジ大学	フットボール
パブリック・スクール	イギリスの伝統食
アフタヌーン・ティー	ビールとウィスキー
	パブ

今後の開発計画

今年度はこれらの英文原稿について、イギリス出身の英語母語話者（ケネス・フォーダイス氏）によるチェックを受け、イギリス英語の母語話者による録音を行い、編集を行っている。

今年度以降の課題としては、話題の陳腐化を防ぐために時事的なものではなくできるだけ普遍的な話題を選定することと、実際に留学を予定する学習者やイギリスの文化に興味がある学習者の知的欲求に応じる最新の文化事情を反映させることとの兼ね合いがある。これについては、できるだけ一過性となりそうな話題は避けることで、長期にわたって使用を可能にする素材作成を目指したい。

また、言語レベルについては、現段階では英国留学予定者を仮想ユーザとして、真正性のある英語を用いている。今後は、一般的な英語の授業もしくは学習場面での教材使用を考慮に入れて、語彙や文法の観点からテキストの簡易化を試み、必要な知識情報を持たせたままで言語的に易しいレベルの内容も作成する予定である。

また、来年度以降においては、音声原稿をもとに撮影計画を立て、動画像の撮影を行うとともに編集を行い、効果的な動画付き音声教材として公開できるようにしたい。

3. オンライン英語ライティング教材

目的

英語ライティング活動は一般に英作文と呼ばれる。しかし、語彙レベルからいきなり文レベルに飛躍するのは適切でなく、ライティングにつまずいている学習者の多くは、句レベルのライティングで困難にあたっていると考えられる。そこで、句に着目して句内の語順および文内の句の順

に特に焦点を置いた指導の必要があるとの指摘（山岡，2000；山岡，2001）を考慮し，句に焦点を当てたライティング教材を作成することを目的としている。

作成した教材は「英作文自動添削システム サッと英作！」（西村，2002）に掲載して運用を行うことを予定した。このシステムは広島大学情報メディア教育研究センターにも導入されており，英語を全文入力，部分入力，並べ替えの形式で入力し，添削を受けるものである。

この教材では，先述のように句内の語順および文内の句の順に着目している。したがって，語の緩りや意味に関する負荷を与えないため，すべて並べ替え問題の形式で作問を行っている。

研究・開発の現状

文の構成要素の主となる名詞句と動詞句を中心に，特に日英語の相違によって学習を困難にする後置修飾について，次のようなカテゴリを設けた。それぞれについて，20問の問題データを作成している。措置された予算によって英語教師の経験のある教務補佐員（永堀瞳氏）を雇用することができ，分担をしてもらった。

句内の語順（句の中の単語の順番）

名詞句

名詞句

名詞＋前置詞句

名詞＋現在分詞で始まる句

名詞＋過去分詞で始まる句

名詞＋関係代名詞で始まる句

名詞＋関係副詞で始まる句

動詞句

助動詞＋動詞

進行形

受動態

完了形

完了進行形

完了受動態

文内の句順（文の中での句の順番）

前置詞による後置修飾を含む文

現在分詞による後置修飾を含む文

過去分詞による後置修飾を含む文

関係代名詞による後置修飾を含む文

関係副詞による後置修飾を含む文

文内の語順（文の中での語の順番）

前置詞による後置修飾を含む文

現在分詞による後置修飾を含む文

過去分詞による後置修飾を含む文

関係代名詞による後置修飾を含む文

関係副詞による後置修飾を含む文

今後の開発計画

本計画は2か年計画として進めているが，今後は，これら問題コンテンツについて解説を行うインストラクションのページの作成，問題コンテンツのチェックや洗練などを推進していく。また，並べ替え形式だけでなく全文記入形式をとりいれることや，語彙レベルを上げて偶発的語彙学習を狙うことなども検討していきたい。

5. おわりに

これらの教材はまだ開発計画の途上にあるが，情報技術を利用した教育を行うことによって，外国語教育が利するところは大きい。一過性の特性を持つ音声言語は繰り返しを容易にすることや文字との連携，動画像との同期などをもって学習を容易にする。文字言語についても添削シス

テムを通じてフィードバックを行うことができる。今後も継続して、外国語の実践的コミュニケーション能力を養成するような教材の研究開発を進めていきたい。

付記

本稿の一部は、平成16年2月9日に広島大学学生会館において開催された「第3回 広島大学バーチャルユニバーシティフォーラム」において口頭発表された内容の一部と重複する。

謝 辞

コンテンツの作成に関しては中山法子さん（広島大学大学院教育学研究科博士課程後期在学）と永堀瞳さん（広島皆実高等学校非常勤講師）の尽力なくしては完成し得ず、イギリス文化生事情の確認や英語母語話者による校正と録音に関してはケネス・フォードイス先生（広島大学大学院教育学研究科外国人教師）の協力が得られてこそ、開発を行うことができました。心より感謝いたします。

引用文献

山岡大基（2000）「英語産出における語順指導について—句順と句内語順—」『中国地区英語教育学会研究紀要』30, 125-132.

山岡大基（2001）「句構造に関する指導項目および指導過程—句の内心性からのアプローチ—」『中国地区英語教育学会研究紀要』31, 31-40.

西村則久（2002）『サッと英作！ Web ページ』

Available URL: <http://ace3.yasuda-u.ac.jp/~nisimura/eisaku/satto.shtml>

ABSTRACT

Developing Online Materials for English Language Teaching: Report of Projects in the 2003 Fiscal Year

Hiroaki MAEDA

Department of Foreign Language Research and Education,
Information Media Center, Hiroshima University

This paper describes the backgrounds and processes of two projects for developing English language teaching materials. MEXT (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology) has been promoting the "Project of Utilizing IT in Higher Education," and Hiroshima University has been engaged in the project in such areas as management of Web infrastructure, simultaneous Web transmission of video and sound for distance learning, and developing Web materials for teaching. As for English language teaching, the two projects started as parts of the project mentioned above in the 2003 fiscal year by the author. One aspect involves developing online video and audio materials which introduce historical culture and daily customs in the U.K. These materials are designed especially for students who are planning to study in Britain. The other project entails creating online writing materials which focus on word orders in phrases and phrase order in sentences. The goal of this project is to help learners become more aware of the differences between the Japanese and English languages, particularly from the aspect of premodification in Japanese and postmodification in English. The status of development, remaining issues, and further plans are described.